

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

学びは最大の財産!!

OB MESSAGE

通信教育部福祉心理学科卒業生 **盛戸由希子**

はじめに

私は、通信教育部福祉心理学科に平成26年4月に3年次編入学し、今年(平成28年)の3月に卒業しました。編入学を決意したきっかけは2つあり、一つ目は、人生の折り返し地点に差しかかる年代になり、もう一度、何かを学びたいという、『知識欲』『学習欲』が芽生えたこと(今、“学び直し”がブーム!?だったはず…)。そしてもう一つは、私は現在、総合人材会社でキャリアコンサルタントとして勤務し、再就職を支援する業務を行っています。多くの方々の支援をしていくなかで(支援している人の中には、うつ病や統合失調症等の精神的な病を抱えている方もいます)、クライアントに向き合うとき、その人にとってどのように接することが望ましいのか、また、一人ひとりに合った支援をするにはより高度な専門的知識を習得し、人間理解を深めていく必要があるとの思いが強くなり、かねてより興味があった『心理学』を学びたいと思ったからです。

また、人生は一度きり、せっかくこの地球に生まれて、学べる環境があるのだから、ならば悔いのないように、ためらわず、怖がらずに、心のままにチャレンジ(挑戦というと、“戦い”に“挑む”というイメージになってしまうので…。チャレンジという言葉の方が合うと思います)して、前に進んでいこうと思いました。実際には、本当にやっていけるか、2年間で卒業できるのか、仕事との両立は大丈夫なのか等の不安はありましたが…。

2年間の日々

大学に入学した際に掲げた目標は、①2年間で卒業する、②「R」科目以外の科目は、オンデマンドかスクリーニングに参加する、③認定心理士・社会福祉主事任用資格を取得することでした。

大学での2年間は、学べる喜び、楽しさを十分に味わうことができ、また、仙台や東京でのスクーリングは旅行気分にもなり、同じように、高い志をもって入学した同志との交流も楽しみの一つで、普段は孤独な通信の学習ですが、同志との交流や生の講義の聴講、特に広大な国見キャンパスでのスクーリングは、徐々に学生気分に戻ることができて、とても貴重で有意義なかけがえのない時間でもありました。しかし、やはり大変なこと、挫折しそうになること、弱音を吐きたくない時が多々ありました。オンデマンドスクリーニングの視聴は、特に夜に視聴していると、睡魔との闘いでもあり、レポート課題の提出やオンデマンドスクリーニング試験の提出期限に追われる日々は、まるで締め切りに追われている作家のようでもあり（レポートの神様が降りてこない、1行も進まないということも、しばしばあり…）、週末や連休に行われるスクーリングの参加は、休日が殆どなくなる生活になり、体力的にもハードな日々でした。

（在学生の皆さん、安心してください。苦労よりも、学ぶ喜び、楽しさの方がはるかに大きいです。）

学びの中から得たもの、実践の場での活用

心理学は学びを進めていくうちに、点と点でしかなかった知識が線で繋がっていく学問で、一つひとつの科目学習を終えるにつれて、どんどんと知識が積み重なっていくことを実感することができました。

私が、特に印象に残っていて、今現在、仕事（キャリアコンサルタント

ト) をする上で大切にしていることは、「カウンセリングⅠ」の授業の際に、『傾聴の“聴”は、“耳”と“目”と“心”から成り立っている、だから、カウンセラーは、クライアントと接する際には、“目”、“耳”、“心”を使って行わなくてはならない、そして、“耳”を「行(ぎょう)にんべん」に変えると“徳”という字なる、つまり、カウンセリングは、2人の人間、クライアントとカウンセラーが目と耳と心を使って行い、2人の間に“徳”が生まれること』だと学んだことと、社会福祉原論の講義の中において、『“理解”するとは、どう言うことか、英語に置き換えて考えてみるとよい、理解を英語にすると、understandである、under(下に)stand(立つ)である。理解は、相手と同じ立場に立とうとするのではなく、下に立つことである。教えてくださいという気持ちが大切である。下に立つことで、その人の背景にあるものまで見えてくる』ということです。

支援する側、される側と捉えてしまうと、どうしても、する側が、“してあげる”という上から目線になりがちですが、上からではなく、その人の人生の主人公である支援を受けている人が、自らの人生をよりよく生きていく、幸福を追求することができるようにサポートしているというマインドを持つことが大切であることを学び、実践の場で生かしていきたいと思っています。

おわりに

大学での2年間は、私の人生の中でもっとも濃厚な2年間であり、学んで得た知識は、最大の財産となりました。時折、返却されたレポートを読み返すことがあり、苦労して書き上げた当時のことが思い起こされ、とても懐かしく、そして、先生方からの的確なコメントに、今なお、励まされています。

この文章を読んでくださっている在学生の皆さんは、仕事や家庭との両立は大変で、挫けそうになることもあると思いますが、全国には同じように、それぞれの目標に向かって頑張っている仲間がたくさんいます。スクーリングでの出会いをとおして、また学生専用掲示板をとおして、ぜひ交流を持ち、情報交換などしながら、卒業を目指していただければと思います。

最後になりましたが、この場をお借りして、入学当初に掲げた目標を達成し卒業することができたのは、家族をはじめ、職場の上司や同僚、そして、東北福祉大学通信教育部の教職員の皆様のサポートのお陰だと思っております。本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

スクーリング・アンケートより(2)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●公的扶助論 下村 幸仁 東京

- ・生活保護を含め、公的扶助に対する自分の知識がいかに不足しているか思い知らされました。当講義で概要は理解できたので、更に深く学びたいと思いました。
- ・生活保護のあり方について再確認させられる講義でした。実習先でも生活保護の取り扱いがあるので、現場でもこの講義を心に留めて学んで生きたいと思います。

●福祉心理学 渡部 純夫 仙台

- ・初めてのスクーリングで緊張していましたが、先生の講義を受けて分かりやすい説明で楽しく学ぶことができました。参加することで今後の学修に活かすことができました。
- ・福祉心理学の位置づけが理解できました。人と関わる上で相手を理解し、行動観察からその人の今ある心理状況を理解し、その人が人生を全うするまでの幸福を考えていかなければならない大切な、しかし難しい学問だと感じました。
- ・高齢者の心身の状態の理解が深まりました。特に高齢者の生きがいは「今までの思い出」にあるという点に考えさせられました。

●社会福祉援助技術論A 川口 正義 仙台

- ・ソーシャルワークの考え方とカウンセリングでの考え方は似ているようで、全く違うものであることを、事例から学ぶことができた。
- ・実際の福祉現場で活躍されている先生の事例を聞き、全てつらく感じてしまい感情移入してしまった。社会福祉士の対象は高齢者から児童まで幅広く、支援の必要な人が遅れていることを学んだ。また、そのような人たちに対する気づきが必要と感じた。

●福祉行財政と福祉計画 佐藤 英仁 仙台

- ・あまり触れる機会が少ない分野の内容だったが、実は我々の生活に密接で知れば知るほど面白かった。分かりやすく身近な例を沢山紹介してくださり、情報も最新のものでスムーズに理解することができた。
- ・データが最新情報であり国家試験に参考になる勉強の方法等、気づきがあったことが大変良かった。参考資料も充実しているので復習に役立つ。